

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名：株式会社萩・森倫館

上位関連計画にみる地域の将来
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにかぼんニュートラル達成
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：44,773人(R3.9月)、将来：37,062人（2030年）、23,102人（2050年）（萩市人口ビジョン（2020年3月改訂）より）
 ○萩市総合戦略（2020年3月策定）
 新規林業従事者数 現状：0人（2018年）→目標：5人（2024年）
 搬出材積量(主伐、年間) 現状：3,000m³（2018年）→目標：11,700m³（2024年）
 おたから活用イベントの実施数(累計) 現状：20件（2018年）→目標：50件（2024年）
 観光入込客数(年間) 現状：4,506,575人（2019年）→目標5,000,000人（2024年）
 ○第2次萩市環境基本計画（2017年3月策定）
 市民一人当たりの電気使用量（CO2排出量） 現状：5,211kwh（3,695kg-CO2）（2015年）→目標：4,950kwh（3,325kg-CO2）（2026年）
 林業振興会等森林ボランティア組織数 現状：7団体（2015年）→目標：7団体（2026年）
 計画的な間伐の実施 現状：104.4ha（2015年）→目標：100ha（2026年）
 森林教室等開催数 現状：13回（2015年）→目標：15回（2026年）
 環境に関する出前講座開催数（子ども対象） 現状：13回（2015年）→目標：20回（2026年）
 子どもを対象とした自然体験型環境学習（水辺の教室等）開催数 現状：5回（2015年）→目標：7回（2026年）

②具体的な取組
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。
 ●**地元材の利用促進**：建材利用促進、新商品開発、コーディネート（工務店、製材所、木工家、萩・森倫館他）
 ●**里山賃貸住宅事業**：里山賃貸住宅の構想・建設・運営（まちづくり事業者、萩・森倫館、市、工務店、製材所、森林組合他）
 ●**人材育成**：林業ツアー、勉強会、教育プログラム（萩・森倫館、工務店、製材所、山主他）
 ●**森林資源普及啓発**：木育サービス、森・木を知る触れられるイベント（まちづくり事業者、市、萩・森倫館）
 ●**木のある暮らし価値創造事業**：
 地域産木材PRイベントの実施、加工機レンタル、木質空間の見学会・イベント等の実施（萩・森倫館、市、地域工務店他）
 ●**山・森・木材で遊べる場づくり事業**：
 森林公園・キャンプ場をフィールドとした森林サービスの開発・提供
 （観光事業者、娯楽事業者、飲食事業者、萩・森倫館、市、森林サービス事業者他）

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	海も山も誇れるまちづくり	田床山来場者数	2,203	2,300	集計途中	人
	海も山も誇れるまちづくり	森林空間でのイベント実施回数	0	2	2	回
経済	文化・歴史の残るまちなみの継承	地域産木材活用促進事業補助金助成件数	4	-	6(未確定)	件
	強い地場産業の形成	萩産製品開発数	3	5	2	件
	強い地場産業の形成	田床山を活用した事業コンテンツ数(累計)	1	2	1	件
	強い地場産業の形成	プロモーションイベント開催数	1	3	3	回
社会	地域産業を支える担い手育成	勉強会参加者数	24	50	207	人
	地域産業を支える担い手育成	林業に関する出前講座開催数	0	5	4	回
	自然が大好きになる教育機会の充実	木育体験参加者数	0	50	153	人

①ありたい未来
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ●**森とまちと人がつながり、風土・文化・伝統・技術が継承、循環していく地域**

当地域は、かつて木材とともに森林から得られる竹や薪、炭などを利用した地場産業や生活に根ざした森林資源利用がなされていた集積地である。市内に大きく広がる森林資源の循環利用を中心に、林業の再生と雇用創出の「森づくり事業」、教育機関とも連携し地域資源を活用する人材を生み出す「ひとづくり事業」、山や森を活用する事業が生まれ続ける基盤となる森の入口として「場づくり事業」、その先に森林資源を中心とした地域資源の利活用の継承と普及促進をおこなう「まちづくり事業」を行っていく。それらの事業を有機的につなげることによって、地域に根く歴史・文化との関連付けや藩政時代から続く人材育成の地としての特色を生かした地域を目指す。

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	海も山も誇れるまちづくり	計画的な間伐量	64.01	-	2030年度	100	ha
	海も山も誇れるまちづくり	人工林再造林率	15	-	2040年度	30	%
経済	文化・歴史の残るまちなみの継承	里山賃貸住宅入居率	0	-	2030年度	50	%
	強い地場産業の形成	萩産材を利用・購入したことがある人の割合	17	-	2030年度	50	%
	強い地場産業の形成	搬出材積量	5,926	-	2030年度	11,700	m ³
社会	地域産業を支える担い手育成	新規林業従事者数	6	-	(2024年度)	5	人
	地域産業を支える担い手育成	林業・木材業従事者の若年層(40代以下)の割合	33	-	2040年度	50	%

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

森とまちと人がつながり、風土・文化・伝統・技術が継承、循環していく地域を目指すには、地域産業である林業、森林の状況、森林・木材がもたらすまち・人の暮らしへの影響、暮らしの豊かさについて知ることが重要である。このため、萩の森・木について発信する機会、森林資源を中心に地域資源の活用・循環について学ぶ勉強会、森や木材に触れられる体験・ワークショップ、事業者向けの林業・製材の現状を知るツアーを開催し、萩産材を利用する事業者・ユーザーを増やすことで域内流通量・販売額も増加する。また、地域産材木製品や森林・木工コンテンツの商品開発を進め、新たな森・木に触れられる接点の創出、域外からの収益増を図る。

木のある暮らしの価値が照らされ、地域材の循環利用が増加することで、森林の整備・生物多様性保全や歴史的な街並み・建物及び技術・文化の継承に影響することが期待できる。また幼少期から地域資源の魅力を体感することで、地域資源への誇りや愛着を形成し、地域産業担い手確保に繋がることを期待できる。

当面は森林空間での遊び体験を入り口に、木製品、木質空間、コンテンツにより財源を獲得しながら木のある暮らしの価値を発信し、主体的に森林・木材・環境に関わる人を増やしていく。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください